バカと天才？たちと召喚獣

SHIN.

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
バカと天才？たちと召喚獣

【Ｎコード】
Ｎ１０６８Ｚ

【作者名】
ＳＨＩＮ．

【あらすじ】
科学とオカルトと偶然によって開発された「試験召喚システム」を試験的に採用し、学力低下が嘆かれる昨今に新風を巻き起こした文月学園。
そこに二年の振り分け試験直前に転校してきた７人の天才？とＦクラスのバカたちとＡクラスの優等生たちが繰り広げる学園物語です。
※この作品が処女作ですので駄文＋亀更新になるかもしれませんがそれでもよければ読んでください。

プロローグ（前書き）

はじめまして、ＳＨＩＮ．と申します。

文才もなく、駄文になるかもしれませんが、よろしくお願いします。

プロローグ

振り分け試験日

明久ｓｉｄｅ

時刻８時５５分
「おはよーございます鉄・・・西村先生！」
鉄人「吉井、遅刻・・・なぜそんなにボロボロなんだ？」
「いやーくる途中にチンピラに絡まれてる女の子を助けてたら遅れちゃって～」
鉄人「くだらん冗談はいいから早く服を着替えて試験会場に行け（まったくこのバカは・・・）」
「はーい！」
僕は校門前で鉄人に挨拶してから、更衣室で体操服に着替えてから試験会場へ向かった。

「おはよー雄二」
雄二「ん？遅かったなバカ久」
明久「来て早々人を罵倒しないでよ！僕はバカじゃないし！雄二も大差ないじゃないか！」
康太「・・・振り分け試験の日に遅刻する奴なんてバカしかいない」
島田「仕方ないわよ、吉井はバカなんだし」
「みんな酷い！これにはひじょ～に深い訳が・・・」
秀吉「まさか振り分け試験のときに遅刻とはのう・・・」
「だからちがうってば！」
雄二「なら何故遅刻したんだ？」
「それには深～い事情があって・・・」
雄二・秀吉・康太・島田「「「「（・・・）寝坊（だな！）（じゃ

な！）（ね！）」」」」
「待って！まだ何もいってないよね！？」
大島先生「次の教科の試験始めるから全員席に着けよー」

振り分け試験終了後
「これならＣクラスくらいいけたんじゃないかな？」
雄二「安心しろ明久、お前はＦクラスで確定だ」
「なんだと！１０問に１問は書けたはずだからＤにはいってるはずさ！」
４人（（（（やっぱり吉井はバカだな））））
明久「みんなどうして僕をあわれむような目でみるの？」

明久ｓｉｄｅｏｕｔ

優璃ｓｉｄｅ

優璃家にて
時刻２０時３０分

「ハァ・・・（今日の朝、変な人たちに絡まれていた私を助けてくれた人・・・たしか文月学園の制服着てたよね？ならまた会えるかな？）」
葵「どうかしたの？優璃」
「ううん、なんでもないよ！」
葵「それならいいけど」
「それより葵、振り分け試験受けなくてよかったの？」
葵「いいのいいの、私は演劇ができればどのクラスだっていいし、麗奈も心配だしね」
葵は笑顔でそう答えた。
麗奈「・・・ごめんなさい」

葵「麗奈が謝ることはないでしょ」
「そうだよ」
麗奈「・・・でも」
葵「気にしないの、それに和くんもFクラスだから」
「え？和くんはAクラスのボーダー越えてたはずだけど・・・」
麗奈「・・・和くん寝坊したんだって」
「なにやってるの和くん・・・」
葵「まさか振り分け試験の日に寝坊するとは・・・」
ピンポーン♪
「誰かな？」
葵「ちょっといってくるね」
和哉「お邪魔しま～す」
葵「噂をすれば・・・だね」
和哉「？？？」
「寝坊くん、どうしたの？」
和哉「うっ！？どうしてそれを」
「葵から聞いた～」
和哉「葵さん！どうしてしってるんですか、今日試験受けてないでしょ！？」
葵「学園にいる知り合いに聞いたんだよ、小学生が振り分け試験に遅れてきたって」
和哉「小学生じゃない！」
「試験の前の日に夜更かしして寝坊するくらいだから説得力ないけどね～」
和哉「・・・（シクシク）」
麗奈「・・・ところで優璃は大丈夫なの？」
「私は多分問題ないとおもうけど」
麗奈「・・・優璃とも一緒のクラスがよかった」
「来年は同じクラスになれると思うよ、麗奈も頑張ってるし」
麗奈「・・・来年はみんなでAクラス」

葵「そういえば、宗くんと薫ちゃんと蓮くんは？」
麗奈「・・・薫は問題ないって言ってた」
「宗くんと蓮くんは特例で別の日に振り分け試験受けたらしいよ」
麗奈「・・・あの３人はＡクラス確実のはず」
葵「そうだね～」
「そういえば次の登校日っていつだっけ？」
葵「たしか始業式の日だよ」
「そうだったね、はやく学園に行きたいんだけどね（あの人に早く会いたいし）」
葵「そうだね。さてと、それじゃあ麗奈の日本語の勉強でも手伝うよ」
麗奈「・・・ありがとう」
「和くん・・・いつまで泣いてるの・・・・」
和哉「・・・僕は小学生じゃない・・・（シクシク）」

優璃ｓｉｄｅｏｕｔ

第1話<転校生たちと自己紹介>

明久side

鉄人「遅いぞ！吉井！」
「おはようございます西村先生！」
鉄人「吉井・・・おはようございますじゃないだろう」
「え？　えーっと・・・今日も肌が黒いうえに暑苦しいですね？」
鉄人「お前は遅刻の謝罪より、俺を罵倒する事と肌の色の方が大事なのか？・・・まあ良い、受け取れ」
「掲示板とかに張り出したほうが楽じゃないですか？」
鉄人「まあそれもそうなんだがな、ウチは試験校として有名だからな色々問題があるんだ」
「へぇ～、さて何クラスかなっと（きっとDくらいは・・・）」
もらった封筒の端を破き、中に入っていた紙をみると。
『吉井　明久・・・Fクラス』

二年Fクラスの前。吉井明久は躊躇していた。

「遅刻なんてして、みんなの印象悪くなってないかな・・・？」
「なんて考えすぎだよね！」
軽快に扉を開けて入った。
「すいません。ちょっと遅れちゃいました♪」
雄二「早く座れこのウジ虫野郎！」
（・・・へ？）
雄二「聞こえなかったのか？あぁ？」
（それにしてもなんて物言いだろう。いくら教師でも失礼すぎる。）
僕はにらみつけるように教壇に立っている教師を見た。
「・・・・・雄二、何やってんの？」

教壇にいたのは明久の悪友、坂本雄二だった。
雄二「先生が遅れてるらしいから代わりに教壇に上がってみた、なんか転校生がこのクラスに来るらしいぞ」
明久「そうなんだ～」
F「「「「「なにーーーー！？転校生だとぉぉぉぉ！！？」」」」」
F「男か！？女か！？」
雄二「男子1人、女子2人らしいぞ」
F「「「「女子がくるぞーー！！」」」」
F「「「「「うおぉぉぉぉ！！」」」」」
「で、何で雄二が先生の代わりを？」
雄二「一応このクラスの最高成績者だからな」
「え？それじゃ、雄二がこのクラスの代表なの？」
雄二「ああ、そうだ」
（雄二さえ説得すればこのクラスは僕の思いどおりに・・・）
雄二「これでこのクラスの全員が俺の兵隊だな」
（考えることは、同じなんだな）
「それにしてもさすがはFクラス。ひどい設備だね」
Fクラスの面々はみんな床に座っている。椅子なんてものはないらしい。
福原先生「えーと、ちょっと通してもらえますかね？」
そこには寝癖のついた髪によれよれのシャツを貧相に着た、いかにもさえない風体のオジサンが居た。
このクラスの担任だ。
福原先生「それと席についてもらえますか？ＨＲを始めますので」
僕と雄二がそれぞれ返事をして席に着く。
先生は明久たちを待ってから壇上でゆっくりと口を開いた。
福原先生「えー、おはようございます。二年Ｆ組担任の福原慎です。よろしくお願いします。」
福原先生は黒板に名前を書こうとして、やめた。
チョークすらまともにないみたいだな。

福原先生「皆さん全員に卓袱台と座布団は支給されてますか？不備があれば申し出てください」
F「せんせー、座布団に綿が入ってないです」
福原先生「我慢してください」
F「せんせー、卓袱台の足が折れました」
福原先生「ボンドで直してください」
F「せんせー、窓が割れてて隙間風が寒いです」
福原先生「ビニール袋とセロハンをあげますから直してください」
（・・・・・・ひどすぎる）
福原先生「では、自己紹介でも始めましょうか。そうですね、転校生からやってもらいましょう。一ノ瀬君、川崎さん、水無月さん、入ってきてください」
福原先生がそう言うと、転校生の3人（小学生の男の娘と長い黒髪を後ろで束ねている女の子とセミロングの金髪の女の子）がFクラスに入ってきた。
福原先生「まず、一ノ瀬君。軽く自己紹介してください。」
和哉「えっと、一ノ瀬　和哉といいます。趣味は絵を描くことです。一年間よろしくお願いします」
F「どこからどうみても小がk・・・ひっ！？」
（な・・・なんだこの殺気は！？）
和哉「僕は小学生じゃないですので間違えない様にお願いします（ゴゴゴゴ・・・！）」
一之瀬君は黒いオーラを出しながらF生徒にそう言い放った。
福原先生「つっ次は、川崎さん。自己紹介を。」
葵「川崎　葵です。部活は演劇部に所属する予定です。一年間よろしくお願いします。」
長い黒髪を後ろで束ねている子がそう言った。
秀吉「葵殿ではないか！？どうしてここにいるのじゃ？」
「秀吉の知り合い？」
秀吉「まあ、そんなところじゃ」

葵「あ、秀吉君もFクラスなんだ？」
秀吉「うむ。しかし葵殿はAクラス確実の成績だったはずじゃが？」
葵「麗奈が心配だったから。振り分け試験受けなかったんだよ。」
福原先生「え～、雑談は後にしてください。」
葵「あ、すみません」
福原先生「水無月さん、自己紹介を」
麗奈「・・・はい。・・・水無月　麗奈です。・・・・・・よろしくお願いします。」
と、綺麗な金髪の女の子が言った。
F「質問いーですかー？」
麗奈「・・・はい」
F「親が外国人なんですか？」
麗奈「・・・母がイギリス人」
葵「ちなみに最近までイギリスにいたから、少し日本語が苦手だから話すときはゆっくり話してあげてね」
（帰国子女か・・・島田さんと同じで大変なんだろうなぁ・・・）
福原先生「次は、廊下側の人から自己紹介をお願いします」
秀吉「木下　秀吉じゃ。演劇部に所属しておる」
（秀吉、今日もかわいいなぁ～）
秀吉「よく間違われるが儂は女子ではなく男子じゃ・・・」
和哉（木下君も苦労してるんだね・・・）
康太「・・・土屋　康太・・・特技は盗tじゃなくて盗s・・・特にない」
和哉（・・・聞かなかったことにしよう）
島田「島田　美波です。海外育ちで日本語は会話は出来るけど読み書きが苦手です。趣味は吉井　明久を殴ることです☆」
明久「誰だ！そんなピンポイントで危険な趣味を持ってる子は！？」
和哉・葵（（あの子とはあまり関わらないほうが良さそう））
あとは名前をいうだけというのが続き、明久の順番までまわってきた。

「コホン。え～っと、吉井　明久です。気軽に『ダーリン』と読んでくださいね♪」
F「「「「「「「ダーーーリンィィィーーーン！！！！」」」」」」」
（凄い威力だ・・・吐き気が止まらない）
「・・・失礼。忘れて下さい。とにかくよろしくお願い致します」
僕が自己紹介を終えると・・・
姫路「あの、遅れて、すみま、せん・・・」
F×41「え？」
福原先生「ちょうど好かったです。今自己紹介をしているところなので、姫路さんもお願いします」
姫路「は、はい！　あの、姫路　瑞希と言います。よろしくお願いします！」
F「はいっ！質問です！」
姫路「あ、はいっ。なんですか？」
F「どうしてここにいるんですか？」
姫路「そ、その・・・振り分け試験の最中、高熱を出してしまいまして・・・」
F「そういえば、俺も熱（の問題）が出たせいでFクラスに」
F「ああ、化学だろ？　あれは難しかったな」
F「俺は弟が事故に遭ったと聞いて、実力を出し切れなくて」
F「黙れ1人っ子」
F「前の番、彼女が寝かせてくれなくて」
F「今年一番の大嘘をありがとう」
（僕以外もみんなバカばっかじゃないか・・・）
姫路「で、ではっ、今年1年よろしくお願いします！」
姫路は逃げるように、僕と雄二の間の空いてる席に着いた。
彼女は席に着くや否や、安堵の息をついて卓袱台に突っ伏してしまう。
「姫路さん、体調はもう大丈夫なの？」
姫路「あ、吉井君。だいぶ良くなりましたよ。」

「そっか、よかった」
福原先生「はいはい。静かに・・・」
バンバン！！・・バキッ！
教卓が木っ端微塵になった。
（さすがに酷すぎるよ）
福原先生「え～。代えを持ってきますので、皆さんは自習をしていてくださいね」
「・・・ねえ雄二、ちょっと良い？」
雄二「ん？なんだ？」
和哉（おもしろそうだから、盗み聞きしようかな♪）
雄二を伴い廊下に出た。
姫路「吉井君、どうしたんでしょうか？」
葵「姫路さん、吉井君が気になるの？」
姫路「え？、えっと」
葵「川崎　葵です。姫路さん、よろしくね。」
麗奈「・・・水無月　麗奈」
姫路「こ、こちらこそよろしくお願いします」

廊下にて。

「ねえ雄二、試召戦争を仕掛けてみない？」
雄二「この前学校の設備なんざどうでもいいっていってなかったか？・・・姫路のためか？」
「ち、違うよ！？」
雄二「素直じゃねえな。まあどうせ、試召戦争はやるつもりだった。世の中学力こそがすべてじゃないって事、その証明がしてみたくてな」
和哉（新学期初日から仕掛けるのか・・・ま、とりあえずはFクラス代表の手腕をみせてもらいますか）
雄二「先生が戻ってきたみたいだし、戻るぞ」

再び教室にて。

福原先生「えーと、坂本君キミが最後ですよ。クラス代表でしたよね？前に出てきてください」

雄二「了解、Ｆクラス代表の坂本雄二だ。代表でも坂本でも好きなように呼んでくれ」

雄二「コホン。さて、皆に一つ聞きたい。・・・Ａクラスは超豪華待遇らしいが・・・不満はないか？」

Ｆ×４１「大アリじゃあッ！」

雄二「だろう？俺だってこの現状は大いに不満だ！」

Ｆ「いくら学費が安いからってこの設備はあんまりだ！」

Ｆ「Ａクラスだって同じ学費だろ！？」

Ｆ「改善を要求する！！」

雄二「そこで代表としての提案だがＦクラスはＡクラスに対し『試験召喚戦争』を仕掛けようと思う！」

第2話<Dクラスに宣戦布告へ>

雄二「そこで代表としての提案だがFクラスはAクラスに対し『試験召喚戦争』を仕掛けようと思う！」
F「そんなの勝てるわけがないだろ？」
F「これ以上設備が落ちたらどうなるんだ」
F「姫路さんがいたら何もいらない！」
F「麗奈さんがいるだけで僕は満足です！」
雄二「そんな事はない、必ず勝てる。いや俺が勝たせて見せる」
F「無理に決まってやるじゃん」
F「そう言われても何の根拠もないしなぁ・・・」
雄二「根拠ならあるさ。このクラスには勝つことのできる要素が揃っている」
雄二は自信ありげにそう宣言した。
雄二「おい康太、いつまで姫路と川崎、水無月のスカートを覗いてるんだ」
3人「「えっ！？」」
3人は素早くスカートを押さえた。
雄二「土屋　康太　こいつがあの有名な寡黙なる性職者（ムッツリーニ）だ」
そういうと康太は首を横に振った。
F「馬鹿な・・・奴がそうだというのか？」
F「見ろ！まだ証拠を隠そうとしているぞ・・・」
F「あぁ、ムッツリの名に恥じない姿だ」
雄二「それに姫路の事は皆その実力をよく知っているはずだ」
姫路「え？私ですか？」
（姫路さんは学年トップ5に入っているほどの学力だからね～）
雄二「ああ、ウチの主戦力だ期待している」
F「そうだ！俺達には姫路さんがいる！」

F「彼女ならAクラスにも引けをとらない！」
雄二「それに木下　秀吉だっている」
秀吉「ワシもか？」
F「演劇部のホープ！」
F「確かAクラスに木下　優子っていう姉がいただろ」
雄二「そのほかにも島田もいる」
島田「えっウチ？」
雄二「島田は数学だけならAクラスにも匹敵する。当然俺も全力を尽くす」
F「坂本って小学校の頃『神童』とか呼ばれてたんだろ」
F「確かになんかやれそうな気がしてきたぞ」
F「これはいけるんじゃないか！？」
F「よし！やってやろうじゃねーか！！」
教室の士気が高まっていったが・・・
雄二「それに吉井　明久だっている」
シーン・・・
F「誰だよその吉井　明久って」
「雄二。何でそこで僕の名前をだすのさ！？せっかく上がった士気が台無しじゃないか！」
雄二「そうか、知らないのなら教えてやる。こいつの肩書きは『観察処分者』だ！！」
F「確か観察処分者って「馬鹿の代名詞』じゃなかったっけ？」
「ちっ違うよ！！ちょっとお茶目な１６歳の愛称で・・・」
雄二「そうだ『馬鹿の代名詞』だ」
「肯定するなバカ雄二！！」
姫路「あのそれってどういうものなんですか？」
雄二「観察処分者っていうのは具体的には教師の雑用係だな。力仕事とかの雑用を特例として物に触れるようになった召喚獣でこなすんだ」
姫路「それって凄いですね！試験召喚獣って見た目と違って力持ち

らしいですし」
姫路さんが僕に期待の眼差しを向けている。
「あはは。そんな大したものじゃないよ。確かに僕なんかの点数でも召喚獣の力はかなり強いけど、その時受ける召喚獣の負担の何割かは僕にフィードバックされるんだ。皆と同じで教師の監視下でしか呼び出せないし、僕にメリットもないしね」
F「おいおい・・・じゃあ召喚獣がやられたら本人も苦しいって事だろ？」
F「だよな・・・それならおいそれと召喚できないヤツがいるって事じゃん」
雄二「気にするな！明久はいてもいなくても大して変わらん雑魚だ」
「・・・雄二そこは僕をフォローするところだよね」
葵「坂本君、さすがに酷すぎない？」
「川崎さん・・・」
葵「葵でいいですよ」
「葵さん・・・ありがとう」
雄二「まずは俺達の力の証明としてまずDクラスを制圧しようと思う。皆この境遇に大いに不満だろう？」
F「「「当然だ！！」」」
雄二「なら全員筆を執れ！！出陣の準備だ！」
F「「「「「「「「おぉーーーーーッ！！」」」」」」」
姫路「おッおーー／／／／」
姫路さんも恥ずかしげに手をあげていた。
雄二「明久にはDクラスへの宣戦布告の死者になってもらう」
「ねぇ雄二今字が間違ってなかった？それに下位勢力の使者ってたいてい酷い目に遭うよね？」
雄二「大丈夫だ。騙されたと思って行って来い」
和哉「一緒に行こうか？」
麗奈「・・・私も」
「えっ？一ノ瀬君に水無月さん、いいの？」

和哉「和哉でいいですよ」
麗奈「・・・麗奈でいい」
「ならこっちも明久でいいよ。それじゃあ行こうか、和哉君に麗奈ちゃん」
和哉・麗奈「「（・・・）はい」」
こうして3人でDクラスに向かった。

オリキャラ紹介（1）（前書き）

タイトルの通りオリキャラ紹介です。

オリキャラ紹介（１）

名前：神谷　優璃　　性別：女
読み：かみや　ゆり
誕生日：７月１０日
身長：１５３ｃｍ（Ｂ）
所属クラス：２－Ａ（代表）
得意教科：英語
苦手教科：数学
趣味：読書・ゲーム
特技：料理
外見：髪色・髪型は霧島にそっくりだが、体格は霧島よりややスレンダーで、顔は綺麗というよりは可愛い系。
性格：恥ずかしがり屋だが、意外と頑固者。人を見下す奴が大嫌い。

・振り分け試験直前に転校してきた天才？の一人。
・明久と同じマンションに（川崎　葵）（水無月　麗奈）と共に住んでいて隣同士。
・実は大財閥のご令嬢。

＊

名前：川崎　葵　　性別：女
読み：かわさき　あおい
誕生日：４月１７日
身長：１５６ｃｍ（Ｃ）
所属クラス：２－Ｆ
得意教科：古典・現国・英語

苦手教科：数学・物理・化学
趣味：演技の練習、演劇鑑賞
特技：演技、声帯模写
外見：黒髪長髪を後ろでくくっている。美人ではあるが、男の子より演劇命なので、モテてはいるものの、すべて断っている。
性格：温厚な性格だが、友達や演劇をバカにされると人が変わったかのように怒りを表す。

・振り分け試験直前に転校してきた天才？の一人。
・明久と同じマンションに（神谷　優璃）（水無月　麗奈）と共に住んでいて隣同士。
・秀吉とは少しだけ面識がある。
・振り分け試験は（水無月　麗奈）があまりにも心配だったため、わざと受験しなかった（実は総合科目で霧島　翔子よりも上の成績を出せるほどの学力がある）。

＊

名前：水無月　麗奈　　性別：女
読み：みなづき　れな
誕生日：２月２１日
身長：１５５ｃｍ（Ｂ）
所属クラス：２－Ｆ
得意教科：英語・数学・化学・物理
苦手教科：それ以外（半分近くは一桁）
趣味：料理・お菓子作り
特技：料理・お菓子作り・裁縫
外見：髪は肩にかかるくらいの金髪で、顔は目鼻立ちもよく、前いた学校ではファンクラブができるほどの美女。
性格：重度の人見知りで、Ｆクラスでは基本的に、葵・和哉・明久・

秀吉以外とは基本は話さない。

・振り分け試験直前に転校してきた天才？の一人。
・生まれてから人生のほとんどを外国ですごしているため、日本語がほぼわからない。（普段の会話程度ならなんとかなる。）
・明久と同じマンションに（神谷　優璃）（川崎　葵）と共に住んでいて隣同士。
・振り分け試験は問題がほとんど読めないため、Ｆクラス入り。

＊

名前：一ノ瀬　和哉　　性別：男
読み：いちのせ　かずや
誕生日：３月２６日
身長：１４１ｃｍ　　体重：３０ｋｇ
所属クラス：２－Ｆ
得意教科：物理・化学・数学
苦手教科：日本史・世界史・古典
趣味：読書・絵を描くこと
特技：絵を描くこと
外見：髪色・髪型は明久によく似ている。顔は小学生の男子から告白されるほど。その体格のおかげで、制服を着てても小学生にみられるほど。
性格：見かけによらずしっかり者でちょっと腹黒い一面も。

・振り分け試験直前に転校してきた天才？の一人。
・文月学園の３－Ａクラスに異母兄弟の姉と兄がいるが、とある出来事以来、離縁状態。
・振り分け試験は遅刻し得意教科の理系３教科を受験できず、Ｆクラス入り。

第3話<作戦会議>（前書き）

最近急に寒くなってきてちょっと風邪気味です・・・

第3話<作戦会議>

「ただいま雄二、Dクラスに宣戦布告してきたよ」
雄二「おい、明久ちょっといいか？」
「ん？どうしたの雄二？」
雄二「いや、ぶっちゃけお前が酷い目に遭うと思っていたんだが・・・」
「あぁ、うん。和哉君が嘘泣きでもしてDクラスの人たちの気をそらしてくれなければ絶対酷い目に遭ったね。」
雄二「まあいい（無事だったか）、今からミーティングを行う！明久、宣戦布告してきたんだな」
「一応、今日の午後に開戦予定と告げてきたけど」
葵「じゃあ、先にお昼ご飯だね」
雄二「そうするか。明久、今日ぐらいはまともな物食べろよ？」
「そう思うならパンでもおごってよ」
麗奈「・・・明久君お昼ご飯食べない人？」
「いや・・・一応食べてるよ」
秀吉「・・・あれは食べてると言えるのかの？」
康太「・・・明久の主食は水と塩」
「失礼な！！僕をバカにするのも程がある！きちんと砂糖も食べてるよ！」
和哉「それは食べてるとは言わないよ」
葵「正確には舐めるが正解だね～」
（何だろう？皆が同情の眼差しを向けてくる）
雄二「まっ飯代を遊びに使い込むお前が悪いな」
「しッ仕送りが少ないんだよ！」
姫路「あの、・・・吉井君、もしよかったら私がお弁当作ってきましょうか？」
「ゑ？いいの姫路さん！？」

姫路「はっはい明日のお昼でよければですが・・・」
「うん！塩と砂糖以外のものなんて久しぶりだよ！」
島田「・・・ふ～ん。瑞希って優しいんだね。吉井だけに作ってくるなんて」
姫路「えっあッいえ！／／／その皆さんにも・・・」
和哉「僕たちにも？いいの？」
姫路「はい。嫌じゃなければ」
秀吉「おぉ、明日の昼は豪華になりそうじゃのう」
康太「・・・楽しみ」
雄二「じゃあ明日の昼は姫路に任せるとして。さて話を戻すぞ。試召戦争についてだ」
島田「ねぇ坂本。１つ気になったんだけど、どうしてＡでもＥでもなくＤクラスなの？」
雄二「色々理由はあるんだがＥクラスは相手じゃないからだ」
和哉「姫路さんがいるから、正面からやりあってもＥクラスには勝てるだろうからかな？」
雄二「その通りだ」
島田「それならＤクラスとは正面からぶつかると厳しいの？」
雄二「ああ。確実に勝てるとは言えないな」
「なら初めから目標のＡクラスを狙おうよ」
雄二「初陣だからな。派手にやって今後の景気づけにしたいだろ？
　それに、打倒Ａクラスの作戦における必要なプロセスだしな」
「でも、Ｄクラスに勝てなかったら意味がないよ」
雄二「負ける訳ないさ、お前らが俺に協力してくれるなら勝てる・・・・・いいか、お前ら。ウチのクラスは・・・最強だ！」
島田「良いわね。面白そうじゃない！」
秀吉「Ａクラスの連中を引きずり落としてやるかの！」
康太「・・・（グッ）」
姫路「がっ頑張ります！」
麗奈「・・・頑張る（優璃たちとは戦いたくないんだけど・・・）」

葵「あ、私、振り分け試験受けなかったから0点なんだけど」
和哉「僕も受けてない教科があるんだけど」
雄二「問題ない、開戦と同時に姫路と川崎と一ノ瀬には回復試験に向かってもらうからな。それじゃあ作戦を話すぞ」
そして、僕達は勝利のため雄二の作戦に耳を傾けた。

第３話&ｌｔ；作戦会議&ｇｔ；（後書き）

次回はＡクラスの転校生の話。

その次にＦクラス対Ｄクラスの予定です。

第４話&ｌｔ；Ａクラスの転校生たち&ｇｔ；（前書き）

今回はＡクラスｓｉｄｅの話です。

第４話<Ａクラスの転校生たち>

Ｆクラスで自己紹介が行われているころ。

優璃ｓｉｄｅ

職員室にて。
高橋先生「君たちが転校生の３人ですね？」
宗一郎・薫・私「「「はい」」」
高橋先生「あとの１人はどこにいますか？」
薫「神楽坂君は親に呼び出されて今、帰省中らしいです」
高橋先生「わかりました。ひとまず、Ａクラスに向かいましょうか。」

Ａクラス前。
高橋先生「それではここで呼ぶまで待っていてください。」
宗一郎・薫・私「「「わかりました」」」

Ａクラスにて。
高橋先生「皆さん、席について下さい。」
生徒たちが全員席に着いたところで、
高橋先生「皆さん、進級おめでとうございます、２－Ａクラスの担任の高橋　　洋子です。今年一年間よろしくお願いします」
高橋先生「皆さん全員にリクライニングシート、個人エアコン、冷蔵庫、パソコンは支給されていますか？不備があれば申し出てください」
・・・シーン・・・・・・・
高橋先生「特にないようですね、では、自己紹介でも始めましょう

か。そうですね、転校生からやってもらいましょう。神谷さん、桐谷くん、武内さん入ってきてください。」
3人「「「はい」」」
高橋先生「それではまず、武内さん、自己紹介をお願いします」
薫「武内　薫です♪一年間よろしくお願いしま～す♪」
A「うちの学園って女子のレベル高いよな」
A「だよなー」
高橋先生「次は桐谷君、学年次席として自己紹介をお願いします」
宗一郎「桐谷　宗一郎だ。一応、学年次席だ。一年間よろしく・・・あと、薫に手を出したらコロ（ゴホン！）なんでもありません」
A男子全員（武内さんには手をだしてはいけない！）
高橋先生「次は神谷さんですね。では、2－Aクラス代表として、自己紹介をお願いします」
A×45「え？」
「えっと、（うぅ、緊張する・・・）クラス代表になりました神谷優璃です。・・・至らぬ所もあるかもしれませんが、一年間よろしくお願いします」
A「てっきり霧島さんが代表だと思ってたよ」
A「ってことは神谷さんと桐谷くんは霧島さんより成績いいんだね・・・」
高橋先生「私語は謹んでください」
A×2「すみません」
高橋先生「それでは、自己紹介の続きを廊下側の人から自己紹介をお願いします」

自己紹介終了後。

「はぁ～緊張した～・・・」
薫「優璃は本当に恥ずかしがり屋だね～」
宗一郎「だな」

翔子「・・・神谷、高橋先生が呼んでる」
「あ、はい、わかりました。あと優璃でいいですよ」
翔子「・・ならそう呼ばせてもらう」
「とりあえず職員室に行って来ますね」
宗一郎「いってら～」

職員室にて。

「なにか用ですか？」
高橋先生「えぇ、午後の授業はFクラス対Dクラスの試召戦争があるので自習になりますので、この日本史の課題プリントをAクラスの生徒に渡しておいてください」
「わかりました」

Aクラスにて。

薫「まさか新学期初日から試召戦争仕掛けてくるとは思わなかったなぁ」
愛子「だよね～」
「えっと、工藤さんでしたよね？」
愛子「うん、そだよ～、よろしくね優璃ちゃん、薫ちゃん、桐谷君」
「う、うん（薫みたいな人ですね・・）」
宗一郎「よろしく」
薫「よろしく～☆で、そっちの2人は木下さんと久保君だっけ？」
優子「えぇ、そうよ。ところで、代表は高橋先生と何を話してたの？」
薫「なんでもFクラスとDクラスが試召戦争をするから午後は自習でそのプリントを渡しておいてだってさ」
利光「どういうことだい？振り分け試験直後なんだから、クラスの差は点数の差になるんじゃないのかい。Fクラスに勝ち目なんてな

いだろうに」
優子「久保君の言う通りだし、初日から仕掛けるなんていい迷惑だわ」
薫「おもしろそうだしいいんじゃない？私はパソコンで試召戦争の様子でも観てようかな」
愛子「ボクもそうしようかな～」
「・・・薫、工藤さん、自習プリント終わってからにしてね」
薫・愛子「『え～』じゃないわよ愛子、武内さんも」
優子「「え～」」
薫「名前呼び捨てで構わないよ～」
宗一郎「喋る前に課題を終わらしたらどうなんだ？」
薫「ぶ～宗ちゃん冷たいなぁ」
「で、宗くんはどっちが勝つとみてるの？」
宗一郎「Fクラスの勝つだろうな」
翔子「・・・私もFクラスが勝つと思う」
愛子・優子・利光「「え？なんで？」」」
宗くんと翔子の発言に3人は疑問に思ったらしい。
宗一郎「根拠ならあるぞ、去年の学年末試験の結果を高橋先生に見せてもらったんだが、その時の学年主席が霧島で、学年次席・・・」
利光「姫路さんだね」
宗一郎「そうだ、これほどの成績の持ち主ならAクラス確実のはずだろう？」
優子「たしかにそうね」
愛子「でも、Aクラスにいないよね？あと1人は転校生らしいし」
美穂「あ、あの～」
利光「ん？どうかしたのかい？佐藤さん」
美穂「今の話なんですが、たしか姫路さん、振り分け試験の最中に高熱で倒れたらしいですよ」
「たしか途中退室は0点だから、多分その人はFクラスにいるね」
愛子「姫路さんがいるならDクラスには勝てるかもね」

宗一郎「まあ、それだけじゃないんだけどな」
薫「とりあえず、観戦しようよ」
優子「そうね」
愛子「そだね～」
利光「そうだね」
「薫は課題終わらしてからね」
薫「そんな殺生な～・・・って、いつの間にか皆、課題終わらしてるし・・・」
宗一郎「薫～さっさと終わらせろよ～」
薫「保健体育ならすぐ終わるのに～・・・」
優璃ｓｉｄｅｏｕｔ

オリキャラ紹介（2）・試召戦争のルール（前書き）

今回はＡクラスのオリキャラ（転校生）の紹介です。

ところで前書きって何を書けばいいんでしょうか？

オリキャラ紹介（2）・試召戦争のルール

名前：桐谷　宗一郎　　性別：男
読み：きりや　そういちろう
誕生日：５月３日
身長：１８４ｃｍ　　体重：６６ｋｇ
所属クラス：２－Ａ
得意教科：現代社会
苦手教科：保健体育
趣味：モデルガン収集・ゲーム
特技：射撃・ハッキング
外見：黒髪の短髪で顔は地味だがなかなかのイケメン。
常に改造エアガンを携帯している。
性格：ひねくれ者だが、親友たち（優璃、葵、麗奈、和哉、蓮、特に薫）には心を許している。
親友を傷つける奴にはどんな手段を使ってでも制裁を加える。

・振り分け試験直前に転校してきた天才？の一人。
・（武内　薫）と２人で同棲している。
・明久と同じマンションで部屋は隣同士。
・ＦＦＦ団全員を１０分ほどで片付けれるほど強い。

＊

名前：武内　薫　　性別：女
読み：たけうち　かおる
誕生日：９月２３日
身長：１５９ｃｍ（Ｄ）

所属クラス：２－Ａ
得意教科：保健体育・物理・現代社会
苦手教科：古典・数学・化学
趣味：スポーツ観戦
特技：運動系なら何でも
外見：髪はこげ茶色で髪型はショートボブで美人。
性格：自由奔放で友達思い。
性格的に割と愛子と気が合う。

・振り分け試験直前に転校してきた天才？の一人。
・（桐谷　宗一郎）と２人で同棲している。（親公認）
・親が建設業の社長をしており、かなりのお金持ち。

＊

◎文月学園におけるクラス設備の奪取・奪還および召喚戦争のルール

1．原則としてクラス対抗戦とする。各科目担当教師（もしくは学園統治者）の立ち会いにより試験召喚システムが起動し、召喚が可能となる。なお、総合科目勝負は学年主任（もしくは学園統治者）の立会いのもとでのみ可能。

2．召喚獣は各人一体のみ所有。この召喚獣は、該当科目において最も近い時期に受けたテストの点数に比例した力を持つ。総合科目については各科目最新の点数の和がこれにあたる。

3．召喚獣が消耗するとその割合に応じて点数も減算され、戦死に至ると０点となり、その戦争を行っている間は補習室にて補習を受講する義務を負う。

4．召喚獣はとどめを刺されて戦死しない限りは、テストを受け直して点数を補充することで何度でも回復可能である。

5．相手が召喚獣を呼び出したにも関わらず召喚を行わなかった場合は戦闘放棄と見なし、戦死者同様に補習室にて戦争終了まで補習を受ける。

6．召喚可能範囲は、担当教師の周囲半径１０メートル程度（個人差あり）。

7．戦闘は召喚獣同士で行うこと。召喚者自身の戦闘参加は反則行為として処罰の対象となる。

8．戦争の勝敗は、クラス代表の敗北をもってのみ決定される。この勝敗に対し、教師が認めた勝負である限り、経緯や手段は不問とする。

オリキャラ紹介（2）・試召戦争のルール（後書き）

明日にはDクラス対Fクラスの話を投稿する予定です。

第5話<Dクラス戦・開戦！>（前書き）

Dクラス戦です。

第5話<Dクラス戦・開戦！>

明久side

開戦時間になり、Fクラス対Dクラスの試召戦争の火蓋は切って落とされた。

渡り廊下にて。

（雄二の作戦じゃあまず姫路さんたちが回復試験を受けている間、極力戦死しないように、前線を維持すればいいって言ってたけど、押してはいるもののかなり厳しいんだけど）

Fクラスは島田さんの数学を中心にDクラスと均衡していた。

D「くそっ！　なんでFクラスの癖にこんな奴がいるんだよ！！」

Dクラスの生徒が叫ぶ。無理もない。圧倒出来ると思っていた相手と均衡しているんだから。

その結果、Dクラスは勝利を焦り隊列が乱れ、Fクラスが徐々に押し始めていたが・・・

塚本「皆落ち着け！島田には数学以外で闘えばなんとかなる！元々地力で優っているのはこっちなんだ！一対一にもちこんで確実に仕留めるんだ！」

D中堅部隊「おおーー！！」

Dクラスの中堅部隊長・塚本の指示で徐々に隊列が整い始め、Dクラスに押し返され始めた。

「くっ・・・まずい（このままじゃ突破されてしまう・・・）」

島田「あっ！数学のフィールドが！？」

島田さんが数学のフィールドからでてしまった。

D×5「今だ！Fクラス島田に英語勝負で申しこむ！」

「島田さん！（まずい！島田さんが戦死したらとてもじゃないけど

前線を維持できない）」
和哉「Ｆクラス一ノ瀬　和哉が加勢します！サモン！」
「Ｆクラス吉井　明久も加勢します！サモン！」

・英語
Ｄ１（１２１点）・Ｄ２（１０４点）・Ｄ３（１１８点）・Ｄ４（１３８点）・Ｄ５（１２３点）
ＶＳ
一ノ瀬　和哉（４２３点）・吉井　明久（４７点）・島田　美波（５３点）

「和哉くん！」
和哉「なんとか間に合いましたね」
Ｄ５「何！？４００点越えだと！？」
Ｄ４「構うな！数で押し切るぞ！」
島田「吉井、足で纏いよ！」
「島田さんも、同じく足で纏いじゃないか！」
島田「うるさいわね！！（プスッ」
「目が目があぁぁぁ！！（助けに来たのに目突きはひどくない！）」
和哉「なにやってるんですか・・・」
Ｄ３「先にあのバカ２人を片付けるぞ！」
和哉「させません！”爆破”！」
そういって、和哉の召喚獣の武器のトンファーを敵に向かって投げつけると・・・ドカーン！！

・英語
Ｄ１（０点）・Ｄ２（０点）・Ｄ３（０点）・Ｄ４（０点）・Ｄ５（０点）
ＶＳ
一ノ瀬　和哉（１２３点）・吉井　明久（４７点）・島田　美波（

５３点）

トンファーが敵の近くで爆発しＤクラスの５人の召喚獣は戦死した。
鉄人「戦死者は補修ー！！」
Ｄ×５「鬼の補修はいやだー！」
鉄人「安心しろ。“趣味は勉強、尊敬する人は二宮金次郎”と言う、立派な模範生に仕立て上げてやる！」
Ｄ×５「助けてくれー！」
島田「ところで、一ノ瀬その点数は一体・・・？」
和哉「ん？英語は得意なんですよ、それに回復試験は英語しか受けてませんので」
「これで相手の中堅部隊はあと１人だね」
塚本「くそっ！そこのＦクラス３人に古典勝負を申し込む！サモン！」

・古典
塚本（１３８点）　ＶＳ　一ノ瀬　和哉（７点）・吉井　明久（９点）・島田　美波（６点）

「あれ・・・？」
島田「古典は無理ー！！」
和哉「あはは？どうしましょ？」
塚本「・・・いくらなんでも酷すぎないか？・・・まあいい、覚悟！」
「２人とも撤退するよ！」
島田「敵前逃亡は戦死扱いになるんじゃないの？」
「問題ないよ、須川バリアー！」

・古典
塚本（１３８点）　ＶＳ　須川　亮（７６点）

須川「味方を盾扱いするんじゃねぇ！？」
「須川君にここは任せて教室に戻ろう」
秀吉「須川よ、助太刀するのじゃ！」

・古典
塚本（１３８点）　ＶＳ　須川　亮（７６点）・木下　秀吉（１１９点）

塚本「くっ？また加勢か！」
須川「おらっ！」
塚本「そんな攻撃あたら」
須川の召喚獣が塚本の召喚獣に攻撃を仕掛けるが、あっさりかわされ、
秀吉「隙ありじゃ！」
塚本の召喚獣が回避して体勢を立て直す前に秀吉の召喚獣が塚本の召喚獣の首をはねた。
Ｄクラス中堅部隊長・塚本、戦死。
源二「塚本！どうしてうちの中堅部隊が全滅してるんだ！？」
Ｄクラス代表・平賀　源二が本隊を引き連れてやってきた。
「あの人がＤクラスの代表だね。（そろそろ・・・）中堅部隊員撤退！！（４人しかのこってないけど）」
須川「了解！！」
秀吉「了解じゃ！」
島田「わかったわ！」
和哉「わかりました！」
源二「逃がすか！！本隊の半分は奴らを追うんだ！所詮はＦクラスだ、一対一なら勝てる！」
雄二「待たせたな、明久！」
雄二率いるＦクラス本隊が引き連れてやってきた。

雄二「本隊全員突撃だ！！Dクラスの奴らを殲滅するぞ！」
F本隊全員「おおーー！！」

第5話<Dクラス戦・開戦！>（後書き）

お読みいただきありがとうございます。

今日、ＰＶが３０００を突破しました。

少しでもこの駄文を覗いてくれた方々に感謝します。

第６話<Ｄクラス戦・終戦！>（前書き）

Ｄクラス戦です。

第６話<Ｄクラス戦・終戦！>

雄二「待たせたな、明久！」
雄二率いるＦクラス本隊が引き連れてやってきた。
雄二「本隊全員突撃だ！！Ｄクラスの奴らを殲滅するぞ！」
Ｆ本隊全員「おおーー！！」
源二「くっ？罠か！教室前まで引くぞ！（予想通りだ！！、これで坂本の警護が薄くなる！そこに伏兵を仕掛けさせて終わりだ！）とにかく全員戦死を避けるんだ！」
雄二「明久、あとは任せたぞ」
「了解！」
雄二「近衛部隊は俺とＦクラス前まで下がるぞ！って、近衛部隊の奴らどこいった！？」
麗奈「・・・皆Ｄクラスを追いかけていった」

明久ｓｉｄｅｏｕｔ

雄二ｓｉｄｅ

Ｆクラス前にて。

Ｄ６「来たぞ！坂本だ！！」
Ｄ７「護衛もいないぞ！！」
Ｄ８「さっさと討ち取るぞ！」
「伏兵だと！？」
Ｄ×３「Ｆクラス代表に物理勝負を申」
麗奈「・・・Ｆクラス水無月が受けます・・・サモン！」

・物理
Ｄ６（１３６点）・Ｄ７　（１２４点）・Ｄ８（１１８点）
ＶＳ
水無月　麗奈（２６８点）・坂本　雄二（９２点）

Ｄ８「いつの間に！？」
Ｄ６「まだ、高得点者がいるのか！？聞いてないぞ！？」
麗奈「・・・ここは通さない」
「ほう？Ａクラス並じゃないか」
麗奈「・・・問題文が読めなくても解ける問題が多かったから」
「なるほどな。（水無月も教科によっては戦力になりそうだな）だが、護衛は不要だ」
麗奈「・・・どういうこと？」

明久ｓｉｄｅ

その頃、Ｄクラス前にて。

秀吉「Ｄクラス代表に古典勝負を申し」
Ｄ９「近衛部隊が受けます！」
島田「Ｄクラス代表に」
清水「お姉様～♪」
島田「ひっ！？み、美春！？」
清水「お姉様に古典勝負を申し込みます！サモン！」
島田「えぇ！？鬼の補修はいやー！！」
須川「島田！助太刀するぜ！」
清水「豚野郎は邪魔しないでください！！」
島田「吉井！アンタも助けなさいよ！」
「そんな、ヒーロー気取り、現実では通用しない！（僕だって命は

惜しい！）皆、ここで決めるよ！！一気に攻め切るんだー！！」
Ｆ×１１「うおぉぉーー！！」
島田「あとで、殺してやるー！」
僕の指示でＦクラスがＤクラスの生徒に多対１で勝負を仕掛けていく。
「（！Ｄ代表の護衛が甘い！）Ｆクラス吉井　明久が」
玉野「Ｄクラス玉野　美紀が受けます！」
「くっ？まだ護衛がいたのか！？」
源二「残念だったね、まあ、吉井君だけなら護衛をだす必要もなかったね」
「たしかに、僕じゃあ倒せないかもね・・・だから姫路さん、よろしくね」
姫路「あ、あの～」
源二「え？　あ、姫路さん。どうしたの？Ａクラスの教室は向こうだよ？」
姫路「えっと・・・Ｆクラスの姫路　瑞希です。よ、よろしくお願いします」
源二「あ、こちらこそ」
姫路「その・・・Ｄクラス平賀くんに現国勝負を申し込みます」
源二「は、はぁ。どうも」
姫路「え、えっと・・サモンです」
源二「あ、ああ。サモン・・」

・現代国語

姫路　瑞希　（３５１点）　ｖｓ　平賀　源二（１４９点）

源二「え？　あ、あれ？」
姫路「ご、ごめんなさいっ！」
謝罪の言葉と共に、姫路の召喚獣は大きな剣を振るい平賀の召喚獣

を斬り伏せる。

鉄人「戦争終結！！勝者・・Ｆクラス！！」

この瞬間戦争は終了し、Ｆクラスの勝利で幕を下ろした。

第６話<Ｄクラス戦・終戦！>（後書き）

あー寒い・・・

後書きって何書けばいいんだろう？

第7話<Fクラス対Dクラス戦後>（前書き）

Dクラス戦の戦後対談です。

第7話<Fクラス対Dクラス戦後>

『戦争終結！！勝者・Ｆクラス！！』

Ａクラスｓｉｄｅ

宗一郎「予想通りだな」
翔子「・・・雄二はそう簡単には負けない」
薫「ん？雄二って誰のこと？」
宗一郎「たしかＦクラス代表だ」
翔子「・・私の許嫁・・じゃなくて幼馴染／／／」
そう言って翔子は頬を赤く染めた。
優子「もしかして霧島さん・・・」
愛子「うん、多分そうなんじゃないなのかな？」
利光「意外だね」
３人は心底意外だと顔にでていた。
宗一郎「ま、人の好みをとやかく言う気はないがな」
薫「頑張って翔子ちゃん！！応援するよ！」
翔子「・・・最近あまり話せてないけど・・・頑張る！」
翔子はそう言って、右手を握りこんだ。
宗一郎「しっかし今回の試召戦争の意図がよくわからん」
優子「どうゆうこと？」
宗一郎「いや、設備向上を狙うのなら最初は勝てる確率の高いＥクラスを狙うのが普通だろ」
優璃「そうだね、負けちゃったらあの設備より酷くなるんだからね」
薫「ちゃぶ台と座布団より酷い設備って・・・」
愛子「想像したくないね・・・」
優璃「そう考えるとＤクラスに仕掛けるのは明らかに不自然だよね」

宗一郎「これは俺の予想だが、Ｆクラス代表はＤクラスとＦクラス有利の同盟を結んでＣクラスかＢクラス、もしくはウチを狙ってるのかもしれない」
利光「だが、そんな同盟誰が好きこのんで結ぶんだい？」
薫「設備交換の免除と引き換えとかなら不利な同盟でも飲むんじゃない？」
利光「たしかにＤクラスにとってはメリットしかないし、僕がＤ代表だったら間違いなくその同盟を結ぶね」
優子「なるほどね、もしＤクラスがＡ・Ｂ・Ｃクラスに仕掛けて負けてもＥクラスの設備ですむものね」
宗一郎「まああくまで予想だがな」
優璃「友達もいるからあんまり無理しないで欲しいんだけどね」
優璃は心配そうにそう言った。
利光「そういえば、Ｆクラスにも３人転校生が来たって聞いたね」
優璃「うん、その子たちだよ、本当ならみんなＡクラスの学力があるのに・・・」
優子「Ｆクラスなら弟がいるはずだから話でもきいてみようかしら」
優璃「私も葵たちに優子さんの弟のこと聞いてみようかな？」
薫「さてと、宗くんそろそろ帰ろっ」
宗一郎「ちょっと用事があるから１０分ほど待っててくれ」
薫「はーい☆」
愛子「しっかし２人ともえらく仲が良いねー（ニヤニヤ）」
優璃「２人で同棲してるからね」
愛子「え？同棲！？」
薫「そうだよ～宗くんは私の許嫁だから～／／／」
翔子「・・・羨ましい・・・私も雄二と・・・／／／」

Ａクラスｓｉｄｅｏｕｔ

和哉ｓｉｄｅ

Ｄクラスにて。

葵「勝ったみたいだね」

「そうだね」

Ｆ「卓袱台に腐った畳とはおさらばじゃーーー！！！」

Ｆ「坂本雄二さまさまだな！」

Ｆ生徒たちが騒いでいるのを尻目に坂本がＤクラスの代表と交渉らしいことを始めた。

「代表、何の話をしているんですか？」

雄二「一ノ瀬か。いや、この後の話をな」

「設備交換のことですか？」

雄二「・・・いや、設備は交換しない」

源二「どういうことだい？」

雄二「そっちがある条件を飲んでくれれば、和平交渉で済んだことにしてもいい」

源二「話を聞かせてくれ」

雄二「タイミングを見計らって、アレを壊して欲しい」

坂本が言うアレとは、Ｂクラスの外に付いてる室外機。

「いくら次のＢクラス戦のためとはいえ、それはどうなんですか？（世の中学力だけじゃないといっても・・・）」

源二「わかった。まあ注意や罰則はあるかもしれないが、この教室を守れるならやろう。だが本当に設備を交換しなくていいのか？」

雄二「なんだ？あのボロい卓袱台と腐った畳が欲しいのか？」

源二「と、とんでもない！」

雄二「俺たちの目標はあくまでＡクラスのシステムデスクだ。Ｄクラスの設備で満足されちゃ困るんでな」

源二「モチベーション維持のためってことか」

雄二「じゃあ俺たちはもう用はないんでな。野郎ども引き上げるぞ

！」

源二「ああ。Ａクラスに勝てるように祈ってるよ」

雄二「本当は勝てる訳ないって思ってんだろ」

源二「はは・・・ばれてたか。まあ、頑張ってくれ。期待はしとくよ」

雄二「俺たちは勝つさ、今年のＦクラスは最強だからな！」

和哉ｓｉｄｅｏｕｔ

第７話&ｌｔ；Ｆクラス対Ｄクラス戦後&ｇｔ；（後書き）

次回は明日か明後日には投稿する予定です。

第８話&ｌｔ；Ｆクラス対Ｄクラス戦後の放課後＆ｇｔ；（前書き）

総合ＰＶ５０００、ユニーク１０００を突破！
これからも『バカと天才？と召喚獣』をよろしくお願いします。
それと、今回からバカテストをやってみようと思います。

第8話<Fクラス対Dクラス戦後の放課後>

問題1
以下の意味を持つことわざを答えなさい。
（1）得意なことでも失敗してしまうこと
（2）悪いことがあったうえに、更に悪いことが起きる例え

姫路瑞希・川崎葵の答え
（1）弘法も筆の誤り
（2）泣きっ面に蜂

教師のコメント
正解です。他にも（1）なら”河童の川流れ”や”猿も木から落ちる”、（2）なら“踏んだり蹴ったり”や“弱り目に祟り目”などがありますね。

一ノ瀬和哉の答え
（2）踏んだり蹴ったり殴ったり叩きつけたり

教師のコメント
あなたは鬼ですか。

吉井明久
（2）泣きっ面蹴ったり

教師のコメント

君もですか。

土屋康太の答え
（1）弘法の川流れ

教師のコメント
シュールな光景ですね。

源二ｓｉｄｅ

Ｆクラスが去ってすぐのＤクラスにて。

宗一郎「２－Ａの桐谷だ、代表はいるか？」
Ｄ「代表～桐谷って人が呼んでるよ～」
「わかった、いまいく（桐谷？たしか転校生だよな？）」
宗一郎「アンタが２－Ｄ代表か？」
「あぁ、Ｄ代表の平賀　源二だ」
宗一郎「２－Ａの桐谷だ、少し聞きたいことがある」
「なんだい？」
宗一郎「何を交換条件に和平に持ち込んだんだ？」
「・・どこでそれを？（さっき決まったことなのになぜしっているんだ！？）」
宗一郎「さあな？で、さっきの質問の答えを聞かせてくれ」
「・・悪いが、口止めされているんだ（されてはいないが話さないほうがいいだろ）」

宗一郎「そうか、ならもう一つお前を倒した奴・・・姫路　瑞希で間違いないな？」
「なぜFクラスに姫路さんがいることをしってるんだ！？」
宗一郎「Aクラス確実の成績なんだからAクラスにいなければ必然的になんらかの理由でテストを受けられなかったと考えてるのが妥当だろ」
源二「そうゆうことか」
宗一郎「あぁ、今のFクラスはマークしとくにこしたことはないからな」
「AクラスがFクラスをマークする必要があるのか？」
宗一郎「さぁな？時間とらして悪いな。礼はまた今度でいいか？」
「礼なんて別に・・・」
薫「宗くん、帰ろっ！」
俺が礼を断ろうとしたとき、後ろから元気そうな女の子が桐谷に飛びついて来た。
宗一郎「わかった！わかったから引っ張るな！それじゃあな、平賀」
「あ、あぁ・・・」

源二ｓｉｄｅｏｕｔ

和哉ｓｉｄｅ

Fクラスにて。

「（Dクラスとの交渉内容、話したら2人とも怒るだろうなぁ）葵さん、麗奈さん、ちょっといいですか？」
葵「どしたの？」
麗奈「・・・どうかした？」
坂本とD代表との交渉内容を2人に説明した。

葵「いくら次のBクラス戦のためとはいえ、Dクラスの人たちにそんなこと押し付けたんだ・・・」
麗奈「・・・代表と話してくる」
「代表はもう帰ったよ」
麗奈「・・・明日、話してみる」
葵「・・・私は次の試召戦争に参加しないからね、そんなことまでして勝ちたくないし」
「僕もそのつもりだよ」
葵「この話は明日にしよう！私は部活いってくるね」
麗奈「・・・和哉くん、帰る？」
「そだね～帰ろうか」

下足にて。

「あれ？秀吉くん？女子の制服きてなにしてるの？」
優子「何言ってんのよアン・・・キミ！アタシは木下優子よ！」
「え？あ、すみません（え？双子かな？）」
麗奈「・・・秀吉くんの・・・お姉さん？」
優子「そうよ。ところで、あなた達は？」
麗奈「・・・水無月　麗奈、２－Ｆ」
「あ、転校生の一ノ瀬　和哉です。２－Ｆ所属です。」
優子「え？同い年なの？てっきり、水無月さんの弟かなにかかと・・・」
「・・・はぁ（そんなに年下にみえるのかな・・・（シクシク））」
優子「え？えっと・・（触れちゃいけないものに触れたみたいね）」
麗奈「・・・気にしなくていい、いつものことだから」
「いつものことだからは酷くないですか？（シクシク）」
優子「たしかに見た目は小がk」
「・・・もうやだ」
麗奈「・・・和哉くんが拗ねた」

優子「あ、ごめんね、一ノ瀬くん。」
（どうせ僕は小学生みたいですよ・・・）
麗奈「・・・いつものこと、和哉くん、帰ろ・・・木下さん、さようなら」
優子「え、えぇ、さようなら」
和哉ｓｉｄｅｏｕｔ

第８話&ｌｔ；Ｆクラス対Ｄクラス戦後の放課後&ｇｔ；（後書き）

ご意見、ご感想があればよろしくお願いします。

第９話<必殺料理人・転校生たちの考え>（前書き）

茜さん、ミヤサカさん、感想ありがとうございます。

第９話&ｌｔ；必殺料理人・転校生たちの考え&ｇｔ；

問題２
問：調理の為に火にかける鍋を制作する際、重量が軽いのでマグネシウムを材料に選んだのだが、調理を始めると問題が発生した。このときの問題とマグネシウムの代わりに用いるべき合金の例を１つあげなさい

姫路瑞希・川崎葵・一ノ瀬和哉の答え
問題点：マグネシウムは炎にかけると、激しく酸素と反応するため危険だから
合金の例：ジュラルミン

教師のコメント
正解です。合金なので鉄ではダメと言うひっかけ問題なのですが、引っかかりませんでしたね。

水無月麗奈の答え
問題点：Ａ　ｑｕｅｓｔｉｏｎ　ｃａｎ'ｔ　ｂｅ　ｒｅａｄ.
合金の例：Ｓａｍｅ　ａｓ　ｔｈｅ　ａｂｏｖｅ.

教師のコメント
水無月さんは帰国子女でしたね。早く日本語をマスターできるようにがんばってください。

土屋康太の答え
問題点：ガス代を払ってなかった事

合金の例：
教師のコメント
そこは問題じゃありません

吉井明久の答え
問題点：
合金の例：未来合金（↑すごく強い）

教師のコメント
すごく強いと言われても・・・

Dクラス戦の次の日。

Fクラスにて。
「昨日消耗した奴は今日の午前中に回復試験を受けてくれ！次はBクラスを制圧するぞ！」
F×41「おおーー！！」
明久「さてと、一時間目はすうがkグハッ！？」
島田「吉井！昨日はよくも見捨ててくれたわね！骨の2，30本は覚悟しなさい！」
明久「腕にとんでもない激痛がーーー！！」

昼休み。

葵「代表、ちょっといいかな？」

雄二「ん？なんだ？」
葵「私と麗奈と和くんはBクラス戦には参戦しないからね」
雄二「は？ちょっと待て！どういうことだ！？」
麗奈「・・・代表は間違ってる」
和哉「それに世の中学力がすべてじゃないって事を証明したいといってたのに、結局は姫路さん頼みだからね」
雄二「・・なぜそれを知っている？」
和哉「明久との立ち話を盗み聞きしてましたから」
雄二「そうか・・・どうしても参戦する気がないか？」
雄二は少し困り気味にそう言った。
葵「ないですね」
和哉「まぁ、負けたところで設備ダウン以外特に困ることもないですし」
雄二「そうか・・・なら賭けをしないか？」
麗奈「・・・？？」
葵「賭け・・・ですか。内容は？」
雄二「Bクラス戦をお前ら抜きで勝ったら、その次のAクラス戦に参戦してもらう」
和哉「負けた場合は？」
葵「霧島さんと結婚で、どうかな？」
雄二「は？待て！なぜ翔子のことをしってるんだ！？」
雄二は驚きながら葵に問い返した。
葵「ん？Aクラスの子に聞いただけだよ」
和哉「霧島さんって誰？」
葵「Aクラスの子だよ、代表の幼馴なJ（ゴホン！）許嫁だってさ」
雄二「ちがうわ！・・・まぁいいだろう、その条件でいいのか？」
和哉「まぁ、勝てないだろうからいいですよ」
雄二「後悔すんぞ？」
和哉「代表がね」
ガララッ！

明久「うぅ、酷い目にあった・・・」
葵「あれ？吉井君？昼ご飯食べに行ったんじゃないの？」
和哉「あと秀吉と康太はなんで震えてるの？」
島田「さあ？購買でもいこうかな」
麗奈「・・・昼ご飯食べてなかったの？」
島田「ウチが行く前に吉井達が全部食べちゃったのよ、それじゃ購買いってくるわ」
そういって島田は購買に向かってった。
康太「・・・地獄をみた（ガタガタ）」
秀吉「まさか、姫路の料理があそこまで酷いとはのう・・・（ガタガタ）」
雄二「・・・意外だな、姫路にそんな苦手教科があるとは」

午後。

雄二「次のＢクラス戦なんとかなるか・・？」
島田「え？次の相手はＢクラスなの？」
雄二「ああ、そうだ」
島田「どうしてＢクラスなの？目標はＡクラスなんでしょう？」
雄二「正直に言おう。どんな作戦でも、うちの戦力じゃＡクラスには勝てない」
秀吉「それじゃあワシらの最終目標はＢクラスに変更なのかの？」
雄二「いや、Ａクラスをやる」
明久「意味がわからないよ？」
雄二「クラスだと差がありすぎるから、一騎討ちに持ち込む。それにＢクラス戦が必要だということだ」
和哉「ＢクラスにＡクラスを攻めさせる素振りを見せさせて、Ａクラスに脅しをかけ一騎討ちに持ち込むってことですか？まぁ、僕は参戦しないから関係ないですが」
明久「え？どうしてさ！？」

明久が和哉を問い詰めるように聞いた。
和哉「代表のやり方が気に食わないからかな」
雄二「まぁ、そうゆうことだ。だか、お前ら抜きでＢクラス戦に勝ったらＡクラス戦にはでてもらうからな！」
和哉「約束は守りますよ」
雄二「で、明久。さっさと宣戦布告してこい」
明久「絶対にいやだ」
葵「戦争でないんだし私がいってくるよ」
雄二「なら川崎に任せるか」
葵「はい、いってきますね」

第９話&ｌｔ；必殺料理人・転校生たちの考え&ｇｔ；（後書き）

次回から、Ｂクラス戦の予定です。

ご意見、ご感想があればよろしくお願いします。

第１０話<Bクラス戦・開戦！>（前書き）

Bクラス戦です。

第１０話&ｌｔ；Ｂクラス戦・開戦！&ｇｔ；

問題３
以下の英文を訳しなさい。
Ｔｈｉｓ　ｉｓ　ｔｈｅ　ｂｏｏｋｓｈｅｌｆ　ｔｈａｔ　ｍｙ　ｇｒａｎｄｍｏｔｈｅｒ　ｈａｄ　ｕｓｅｄ　ｒｅｇｕｌａｒｙ.

姫路瑞希・川崎葵・一ノ瀬和哉・神谷優璃・桐谷宗一郎・武内薫の答え
Ａ．これは私の祖母が愛用していた本棚です。

教師のコメント
正解です。きちんと勉強していますね。

水無月麗奈の答え
Ａ．これはわたしのおばあさんがよくつかっていたほんだなです。

教師のコメント
正解ですが、漢字はまだ難しいみたいですね。

土屋康太の答え
Ａ．これは

教師のコメント
訳せたのはＴｈｉｓだけですか

吉井明久の答え
A．☆●◆▽ーーーー

教師のコメント
出来れば地球上の言語でお願いします。

Aクラスside

優璃「今日の午後からFクラスがBクラスに仕掛けるんだってさ」
愛子「え？昨日Dクラスを倒した所なのに？」
宗一郎「回復試験は午前中に全部済ませたみたいだな」
優子「でも、Dクラスに仕掛けさせてからFクラスがしかけるんじゃなかったの？」
薫「だよね～Fの代表さんは何考えてるんだろうね？」
宗一郎「ここで負けたら単なる底抜けのバカだとわかるんだがな」
利光「Bクラスにも勝つと言うのかい？」
宗一郎「今回ばかりはわからん」
宗一郎は頭を掻きながらそう言った。
優璃「そういえば明日には蓮くん学校に来るそうだよ」
優子「蓮くん？神楽坂くんのこと？」
愛子「そういえば神楽坂君ってどんな子なの？」
薫「天然さんだね」
優璃「早く来ないかな、色々とききたいこともあるし」
翔子「・・・優璃はその人の事が好き？」
優璃「へ？違うよ、なんで振り分け試験で手を抜いたのかをききた

いんだよね」
利光「どうゆうことだい？」
宗一郎「本来なら蓮のほうが優璃より点数いいからな、ちなみにあいつ振り分け試験は3教科しか受けてなかったはずだぞ」
優子・愛子「「はい？」」
利光「そ、そんなんでよくAクラスにはいれたね？」
宗一郎の蓮の話に、優子・愛子・利光は唖然とした。
宗一郎「あいつは天才様だからな。さて、自習だし俺は寝るかな」
薫「膝枕でもしようか？」
宗一郎「結構だ」
薫「宗くん冷たいなぁ～」

Aクラスｓｉｄｅｏｕｔ

和哉ｓｉｄｅ

開戦時間になり、Fクラス対Bクラスの試召戦争の火蓋は切って落とされた。

雄二「よし、行ってこい！目指すはシステムデスクだ！」
F「「「「「サー！イエッサー！！」」」」」
「この人たちでBクラス前線部隊を抑えれるの？」
葵「問題ないんじゃないかな？隊長の姫路さんは数学で腕輪持ちだったし」
ガラッ！
B「Bクラスからの使者だ。Fクラスにクラス間交渉に来た」
雄二「・・・内容はなんだ？」
B「四時までに決着がつかなかったら戦況をそのままにして続きは

明日午前九時に持ち越し。その間は試召戦争に関わる一切の行為を禁止する、だ」
雄二「いいだろう、協定を結ぶ」
B「そうか、じゃあ調印をするから新校舎の空き教室に来てくれ」
雄二「わかった、近衛部隊ついて来い！」
雄二は新校舎の空き教室に向かっていった。
葵「絶対罠だよね」
「多分ね」
麗奈「・・・知らせなくてもいいの？」
和哉「代表にも策があるんだと思うよ」
ガラッ！
B1「え？何故人がいるんだ！？」
B2「話と違うじゃないか！」
突然、Bクラスの二人が教室に入ってきた。
葵「え？・・・Bクラスのお二方、何が用でもありましたでしょうか？」
B2「仕方ない！向こうはFクラスなんだ！サッサと片付けて、やることすますぞ！」
B1「了解！！斎藤先生！あのFクラスの3人に現代社会勝負を申し込みます！サモン！」
B2「サモン！」
葵・和哉・麗奈「「「サモン！」」」

・現代社会
B1（196点）・B2（184点）
VS
川崎葵（796点）・一ノ瀬和哉（18点）・水無月麗奈（2点）

麗奈「・・・歴史系は問題文が漢字ばかりだから無理」
葵「麗奈は仕方ないとして、和くん・・・」

「ごめんなさい・・・」
B1「ちょ？なんだよその点数！！」
B2「勝ち目ないじゃないか！」
葵「で、ここになにしにきたの？」
B2「言う訳ないだろ！？」
葵「そう、ならさようなら（ニコ）」
スパン！スパン！
Bクラス2人の召喚獣は一瞬にして葵の召還獣に一閃され、戦死した。
鉄人「戦死者は補修ー！」
B1「鬼の補修はいやだー！」
B2「助けてくれ～！！」
葵「ねぇ、あの人たちなにしにきたんだろうね？」
「宗くんや優璃さんに聞いてみる？」
麗奈「・・・宗くんならなにかわかるかも」
ガラッ！
雄二「今戻ったぞ、ところでさっきBクラスの二人を抱えている鉄人とすれ違ったが・・・お前らか？」
そこにちょうど代表が戻ってきた。
葵「補修はいやだからね」
雄二「そうか」
ガラッ！
明久「ただいま～」
秀吉「ただいまなのじゃ」
姫路「只今戻りました」
島田「戻ったわよ。ねぇ坂本、アンタBクラスと協定結んだの？」
雄二「あぁ、四時以降は試召戦争を禁止して翌日の9時から再開するというものだ」
明久「どうしてそんな協定結ぶのさ！？こっちのモチベーションが下がりかねないよ！！」

雄二「・・・たまには的を得たことを言うんだな、明久」
代表は明久の発言に心底驚いたようだ。
明久「たまには余計だよ！！」
雄二「まあ待て、理由は姫路の体力が持たないからだ」
明久「姫路さんの？」
雄二「今の主戦力は姫路なんだ、姫路がまともに戦えなければ下校時間まで続けても不利になるだけだ」
島田「なるほどね、そういうことなら」
康太「・・・雄二」
いつのまにか近くにいた康太が雄二を呼んだ。
雄二「どうした？ムッツリーニ」
康太「・・・Cクラスの様子が怪しい」
雄二「なんだと！・・・漁夫の利狙いか」
秀吉「流石にBのあとCと連戦なんてことになると勝ち目がないぞい」
島田「どうするのよ！？」
雄二「そうだな・・・Cクラスと不可侵条約を結ぶか」
「それは協定違反じゃないかな？たしか協定内容には『試召戦争に関わる一切の行為を禁止する。』って言ってたし」
葵「最悪の場合、Cクラスに潜んでいて、不可侵条約を結んだ瞬間仕掛けてくる可能性だってある。それに、C代表って茶道部の小山さんでしょ？」
康太「・・・（コク）」
葵「この前、B代表と2人でお話してたよ？」
康太「・・・俺の知らない情報・・・だと！？」
島田「で、でも、流石にそこまで考えてないんじゃない？」
雄二「・・・いや、B代表はあの根本だからな、充分考えられる」
麗奈「・・・根本？」
秀吉「カンニングの常習犯で窃盗など当たり前、喧嘩にはナイフを携帯しているという”卑怯者”の根本かの？」

和哉「そのCクラス代表の小山さんってかなり趣味悪いね」
康太「・・・顔はいいのにもったいない」
雄二「だが、このままって訳にもいかねぇ・・・いや、いい策を思いついた」
明久「ほんと!?」
雄二「あぁ、作戦は明日話すから今日は解散だ!」

Cクラスにて。

根本「くそ!何故奴らがこないんだ!」
小山「恭二、クラスの皆を帰らしていいかしら?」
根本「あ、あぁ」
小山「皆、もう帰ってくれて構わないわ!」
根本「仕方ない、この前盗んでおいた”コイツ”で姫路を脅すか」
その手には姫路が書いたラブレターをもっていた。

第１０話&ｌｔ；Ｂクラス戦・開戦！&ｇｔ；（後書き）

次回、転校生がもう１人来ます。

ご意見、ご感想がありましたらよろしくお願いします。

第１１話&ｌｔ；遅れてきた転校生とＦクラスの作戦&ｇｔ；（前書き）

フラグってたてるの難しいですね・・・・

第１１話&１ｔ；遅れてきた転校生とＦクラスの作戦＆ｇｔ；

問題４
以下の問いに答えなさい
（１）４ｓｉｎＸ＋３ｃｏｓ３Ｘ＝２の方程式を満たし、かつ第一象限に存在するＸの値を１つ答えなさい。
（２）ｓｉｎ（Ａ＋Ｂ）と等しい式を示すのは次のどれか、？～？の中から選びなさい。
？ｓｉｎＡ＋ｃｏｓＢ　？ｓｉｎＡ－ｃｏｓＢ　？ｓｉｎＡｃｏｓＢ　？ｓｉｎＡｃｏｓＢ＋ｃｏｓＡｓｉｎＢ

姫路瑞希・川崎葵・一ノ瀬和哉・神谷優璃・桐谷宗一郎の答え
（１）Ｘ＝π／６
（２）？

教師のコメント
正解です。角度を『°』ではなく『π』でかいてありますし、いうことありません。

土屋康太（武内薫）の答え
（１）Ｘ＝およそ（多分）３（π／６）
（２）

教師のコメント
ごまかしたい気持ちもわかりますが、これでは回答に近くても点数はあげられません。
あと、武内さんは正解ですが真面目にやってください。

吉井明久の答え
（1）
（2）およそ？

教師のコメント
先生は今までたくさんの生徒を見てきましたが、選択問題でおよそをつける生徒は君が初めてです。

次の日。

優子ｓｉｄｅ

朝の通学路にて。
（寝坊したー！急がないと遅刻して・・（ドン！））
向こうから歩いてきた柄の悪そうな3人のうちの一人にぶつかってしまった。
「あ、すみません」
男ａ「いってーな！どこみてやがんだ！」
男ｂ「これ骨おれちゃったかもな～どうしてくれんだ！慰謝料払えや！」
男ｃ「まあ金なんて持ってないだろうから代わりに少し遊ぼうぜ」
「はい？ふざけないで！」
男ａ「まあ、いいじゃねえか。一緒に楽しいことしようぜ？」

「嫌だって言ってるでしょ！！」
男ｂ「ちっ、しょうがねぇ、力づくでいくか・・。」
「え？ちょ、ちょっと・・（誰か助けて・・！）」
柄の悪そうな男たちの一人がアタシの腕をつかもうとしたとき、
男ａ「ぐあっ！？」
男ｂ「おい！？どうｓぐほっ！？」
不意に鈍い音が響き、その男は倒れた。更に次の瞬間には、もう１人、気絶していた。
その横に、文月学園の制服を着た男子がたっていた。
男ｃ「な、なんだお前は？！」
蓮「さあ？誰でしょう？」
男ｃ「てめぇ、なめやがっ（バキッ！）腕があぁぁーー！？」
蓮「さてと・・・（バキボキ）」
男ｃ「待ってくれ！？助けてくれ！」
蓮「んー・・・いいですよ、その代わりそこに転がってる２人を連れてってくださいね」
男ｃ「わ、わかった（ガタガタ）」
そう言ってその男は２人を連れて逃げていった。
蓮「大丈夫？怪我、してない？」
「え、えぇ。大丈夫、ありがとう。（か、かっこいい／／／）」
蓮「君も文月学園の生徒なんだね？」
「え、えぇ、そうよ」
蓮「なら学園まで一緒にいきますか？」
「ゑ？／／／」
蓮「さっきみたいな連中に絡まれると厄介ですし、今からだと走った所で遅刻確定ですから・・・大丈夫ですか？さっきからずっと顔真っ赤ですけど・・・」
「ふぇ！？／／／だだだ大丈夫よ！！・・えっと・・」
蓮「あ、神楽坂　蓮といいます」
「え！？じゃあ転校生の・・／／／」

蓮「ん？知ってるってことは２－Ａクラスですか？」
「えぇ、木下　優子よ、よろしくね神楽坂君／／／」
蓮「蓮でいいですよ、そろそろ学園に行きましょう、木下さん。遅刻とはいえ早く行ったほうがいいでしょうから」
「え、えぇ／／／そうね／／／」

優子ｓｉｄｅｏｕｔ

その頃学園では。

Ｆクラスにて。

雄二「昨日いっていた作戦を実行する！！」
明久「作戦？でも開戦はまだだよ？」
雄二「明久Ｂクラスにじゃないぞ？」
明久「へ？」
雄二「Ｃクラスだ」
明久「なるほど。何をするの？」
雄二「秀吉にコイツを来てもらう」
雄二はそういって女子の制服を取り出した。
和哉「代表・・・そうゆう趣味が・・？」
雄二「ちがうわ！」
秀吉「別に構わんが、ワシが女装してどうするんじゃ？」
葵「少しは嫌がろうよ・・・」
雄二「ああ、秀吉にはＡクラスの木下優子を装ってもらう。秀吉、これに着替えろ」
秀吉「うむ。」
そういって秀吉は着替え始めた。
康太「・・・・・・！！（パシャパシャパシャパシャ！）」
葵「秀吉君・・・そんなことしてるから女の子にみられるんじゃ・・

？」
秀吉「よし、着替え終わったぞい。ん？皆どうした？」
気がつくとFクラスのほとんどの男子が鼻血を噴いて倒れ、姫路と島田は膝をついて落ち込んでいる。
和哉「さあね～？」
秀吉「？おかしな連中じゃの」
雄二「んじゃ、Cクラスに行くぞ」
秀吉「うむ」
明久「あ、僕も行く！」

Cクラス前。

雄二「ここからは一人で頼むぞ秀吉」
明久「Aクラスの使者だから、Fクラスの僕らは一緒に行けないからね」
秀吉「気が進まんのう・・・」
そういいながら、秀吉はCクラスに向かっていった。
明久「雄二、秀吉は大丈夫なの？」
雄二「多分大丈夫だ」
明久「秀吉が教室に入るよ？」
雄二「明久静かにしろ」
秀吉がCクラスに入っていって・・・
秀吉（優子）「静かにしなさい！この薄汚い豚ども！」
明久「うわぁ。これ以上はない挑発だね・・・」
雄二「流石秀吉だな」
小山「な、何よあんた！」
秀吉（優子）「話し掛けなしで！豚臭いわ！」
小山「Aクラスの木下ね？なんの用よ！」
秀吉（優子）「私はね、こんな醜い教室があるのが我慢ならないの！貴方達なんて豚小屋で充分だわ！」

小山「何ですって！Ｆクラスがお似合いですって！？」
秀吉（優子）「手が汚れてしまうから本当は嫌だけど、特別に今回は貴女達を相応しい教室に送ってあげようかと思うの。ちょうど試召戦争の準備もしている様だし、覚悟しておきなさい。近いうちに、私達が薄汚いブタの貴女達を始末してあげるから！」
そう言い残し、靴音を立ててＣクラスから秀吉がでてきた。
秀吉「これで良かったかのう？」
雄二「上出来だ」
小山「Ｆクラスなんて相手にしてられないわ！　Ａクラス戦の準備を始めるわよ！」
Ｃクラスの矛先は完全にＡクラスに向いたようだ。
明久「作戦もうまくいったし、僕達も今日の戦争の準備をしよう。あと１０分で始まるよ」
雄二「そうだな」

第１１話＆ｌｔ；遅れてきた転校生とＦクラスの作戦＆ｇｔ；（後書き）

次回はＢクラス戦の続きを投稿する予定です。

ご意見、ご感想等ありましたらよろしくお願いします。

オリキャラ紹介（3）（前書き）

オリキャラ紹介です。

オリキャラ紹介（3）

名前：神楽坂　蓮　　性別：男
読み：かぐらざか　れん
誕生日：6月8日
身長：173cm　　体重：55kg
所属クラス：2－A
得意教科：数学・物理・化学
苦手教科：英語・古典
趣味：読書・ゲーム・写真を撮ること
特技：料理・スポーツならなんでも
外見：髪色は暗めの茶色で肩の近くまで髪が伸びている。
顔はカッコイイタイプではなく綺麗なタイプ。
性格：人当たりもよく、面倒見がいいが、やや天然で明久並の鈍感。
（それ故、かなりモテるのだがモテているという自覚ナシ）
喧嘩は嫌いだが、親友を傷つける奴や人の夢をバカにする奴には武力行使もいとわない。（その時の戦闘力は鉄人並）

・振り分け試験直前に転校してきた天才？の一人。
・明久と同じマンションに（一ノ瀬　和哉）と共に住んでいる。
・大財閥の跡取り息子で、親からも優秀な跡取りとして期待されているが、本人はまったく継ぐ気はないらしい。
・振り分け試験の時は3教科（4087点）しか受けなかったので、（神谷　優璃）に代表の座を譲ったが本人は楽しければそれでいいとのこと。
・過去のある出来事のせいで理不尽なことを極端に嫌う。

第１２話＆ｌｔ；バカと転校生たちの怒り＆ｇｔ；（前書き）

茜さん、感想ありがとうございます。

今回はＢクラス戦の２日目です。

第１２話<バカと転校生たちの怒り>

問題５
以下の文章の（　）に正しい言葉を入れなさい。
・光は波であって、（　）である。

姫路瑞希・川崎葵・一ノ瀬和哉・神谷優璃・桐谷宗一郎・武内薫・神楽坂蓮の答え
Ａ．粒子

教師のコメント
正解です。特に言うことはありません。

土屋康太の答え
Ａ．寄せては返すの

教師のコメント
君の回答には、先生はいつも度肝を抜かれます。

吉井明久の答え
Ａ．勇者の武器

教師のコメント
先生もＲＰＧは好きです。

明久ｓｉｄｅ

そして午前９時よりＢクラス戦が開始した。

僕たちは昨日中断されたＢクラス前という位置から進軍を始めた。
秀吉「ドアと壁をうまく使うんじゃ！戦線を拡大させるでないぞ」
今回の雄二の作戦では『敵を教室内に閉じ込める』のが僕たち中堅部隊の役割らしい。
なので今は雄二の指示通り今はＢクラス前が主戦場となっている。
「みんな！絶対１人で戦わないで！多対１に持ち込んで周りと協力して敵を倒すんだ！」
秀吉「勝負は極力単教科で挑むのじゃ！補給も念入りに行うんじゃ！」
（どうしたんだろ姫路さん・・・なにかあったのかな？）
このＢクラス教室前での乱戦の中、姫路さんは戦いもせず、指示を出すわけでもなく、様子がおかしいので、今は秀吉が姫路さんの部隊を率いているが、
島田「左側入口がウチ以外ほとんど戦死して押し切られそうよ！援軍をお願い！」
Ｆ「右側入口も押し切られそうです！」
そう言われ、左側入口を見てみると、少しづつ押し戻されていて島田さん以外はかなり点数を消費していた。
「姫路さん！僕は右側の化学のほうで援護をするから、左側入口の数学のほうの島田さんたちの援護をたのんだよ！」
姫路「あ、あの、その・・・！」
（さっきから姫路さんの様子がおかしい・・・どうかしたのかな？）

須川「吉井！俺と横溝の部隊が左側入口の島田の部隊を援護してくる」
「わ、わかったよ。なんとか持ちこたえて！（でも、姫路さんどうしたんだろ？さっきからずっとこの調子だし・・・）」
ふと姫路さんの視線の先を追ってみると、窓際で右手になにか紙らしきものもってこちらを見下ろしている根本くんの姿があった。
「！！（あれは・・ラブレター？・・・もしかして姫路さんの・・・！）」
「秀吉！島田さん！ちょっとここを任せるよ！」
島田「何言ってるのよ！そんな余裕こっちにあるわけないじゃない！」
秀吉「どうしたんじゃ明久！？」
「ちょっとね。姫路さん、調子が悪いんだったら近衛部隊のところまで下がっていいよ」
姫路「・・・・はい」
秀吉「！大体の事情は掴めたのじゃ、こっちはなんとかするから早く援軍を呼んできてほしいのじゃ！」
秀吉もどうやら気づいたみたいだ。
島田「どうしたのよ！？吉井に木下！瑞希まで下がっちゃったら１０分も持たないわよ！？」
秀吉「島田よ、今は戦線を維持することに集中するのじゃ！」
島田「わかってるわよ！」
「すぐ戻るから！なんとかそれまで持ちこたえて！」
そう言って、僕はＦクラスへ走った。

Ｆクラスにて。

「雄二！」
雄二「脱走なら殺すぞ」
「話があるんだ」

雄二「なんだ？」
「根本君の着ている制服が欲しいんだ」
麗奈「・・・そういう趣味があるの？」
葵「趣味は人それぞれだからね～」
「違うからね！？」
雄二「そうだな、勝利の暁にはそれくらいなんとかしてやろう・・・
話はそれだけか？」
「それと、姫路さんを今回の戦闘から外して欲しい」
雄二「理由は？」
「理由は言えない」
雄二「どうしても外さければならないか？」
「うん。どうしても」
雄二「・・・」
「頼む、雄二！」
和哉「・・・ねぇ、もしかしてだけどさ、姫路さん、卑怯者に脅されたりしてるの？」
「何故それを！？あっ！？（しまった・・・）」
葵「へぇ～そんなことする人がいるんだー（ゴゴゴゴ・・・！）」
麗奈「・・・詳しく聞かせて（ゴゴゴゴ・・・！）」
葵と麗奈は黒いオーラを出しながら明久に説明を求めた。
「・・・根本君が姫路さんが書いたラブレターらしきものをもってた」
雄二「なるほどな、内容をばら撒かれたくなかったら、戦線に加わるなとでも脅されてるんだろうな」
和哉「・・・代表」
雄二「なんだ」
和哉「今回の賭けは反則負けでいいですか？」
雄二「いいだろう、だがお前ら４人で姫路がやる予定だったクソヤローに攻撃を仕掛ける役をお前らでやれ・・・できるな？」
「もちろんさ！」

葵「わかりました！」
麗奈「・・・やってみせる！」
和哉「卑怯者に地獄をみせてやる！」
雄二「いい返事だ、俺はＤクラスに指示をだしてくる、あとは任せたぞ！」
和哉「今回はとやかくいってられないから見逃すよ・・」
「３人とも、行くよ！」
そうして３人とともにもう一度Ｂクラスへと向かった。

Ｂクラス前。

根本「お前らいい加減諦めろよな。昨日から教室の出入り口に人が集まりやがって。暑苦しいことこの上ないっての」
雄二「どうした？軟弱なＢクラスの代表サマはそろそろギブアップか？」
根本「ギブアップするのはそっちだろ？」
雄二「無用な心配だな」
根本「そうか？頼みの綱の姫路さんも調子が悪そうだぜ？」
雄二「お前ら相手じゃ役不足だからな。負け組代表さんよぉ」
根本「負け組？それがＦクラスのことなら、もうすぐお前が負け組代表だな」
葵「どうやら間違いないみたいだね・・！（ゴゴゴゴ・・・！）」
和哉「ただで済むと思うなよ！」
麗奈「・・・許さない・・！（ゴゴゴゴ・・・！）」
葵「私たちが道をつくるから、吉井君は卑怯者を殺って！」
明久「任せて！」
和哉「葵、麗奈、秀吉のほうをお願い！」
葵・和哉・麗奈「「「サモン！！」」」

・左側入口（数学）

Ｂ１（１８９点）・Ｂ２（１８１点）・Ｂ３（１４８点）・Ｂ４（２０１点）
Ｂ５（１７６点）・Ｂ６（１６９点）・Ｂ７（１７１点）
ＶＳ
島田　美波（２１３点）・須川　亮（４３点）・一ノ瀬　和哉（６３１点）

Ｂ３「６００ｏｖｅｒだと！？」
Ｂ２「なんでＦクラスにこんなヤツがいるんだよ！」
和哉「・・・”自爆”！」
そういうと和哉の召喚獣が光ながらＢクラスの召喚獣に突撃して・・・
・爆発した。

・左側入口（数学）
Ｂ１（０点）・Ｂ２（０点）・Ｂ３（０点）・Ｂ４（０点）
Ｂ５（０点）・Ｂ６（０点）・Ｂ７（０点）
ＶＳ
島田　美波（２１３点）・須川　亮（４３点）・一ノ瀬　和哉（１点）

和哉「明久！左側入口から行けるよ！」
根本「チッ！右側入口の半分は左側に移動し・・・」
根本が右側入口の部隊に指示するが・・・

・右側入口（化学）
Ｂ８（０点）・Ｂ９（１７点）・Ｂ１０（３２点）
Ｂ１１（３１点）・Ｂ１２（０点）
ＶＳ
木下　秀吉（４７点）・川崎　葵（２１３点）・水無月麗奈（１４７点）

葵「和くん、右側のほうももうすぐ終わるよ！」
右側入口の防衛をしていたＢ生徒も葵と麗奈の圧倒的点数の前にすでに壊滅状態だった。
根本「な、なんでＦクラスに何人も高得点者がいるんだよ！？」
明久「鉄人！Ｂ代表に日本史勝負を申し込みます！」
鉄人「鉄人いうな！・・承認！」
Ｂ１３「近衛部隊が受ける！」
根本「ふっ、ははっ！だが残念だったな！もうすぐ、前線部隊が戻ってくるからなぁ！お前らの奇襲は失敗だ！」
「くっ！（だけど、僕の役目は達成したよ！）」
和哉「ムッツリーニーー！！」
和哉がそう叫ぶと保健体育教師・大島先生を連れてムッツリーニが窓から飛びこんできた。
根本「なっ！？窓からだと！？」
康太「・・・Ｆクラス土屋　康太、Ｂクラス代表根本　恭二に保健体育勝負を挑む・・！サモン！」
根本「うわぁぁぁー！！！！！」

・保健体育
土屋　康太（５４２点）　ＶＳ　根本　恭二（２０３点）

ムッツリーニの召喚獣が根本の召喚獣を小太刀で一閃。
Ｂクラス代表、根本戦死。

鉄人「戦争終結！！勝者・・Ｆクラス！！」

第１２話&ｌｔ；バカと転校生たちの怒り&ｇｔ；（後書き）

次回はＦクラスとＢクラスの戦後対談の前にＦクラスの策によってとばっちりを受けたＡクラスの話です（笑）。

ご意見、ご感想等ありましたらよろしくお願いします。

第１３話&ｌｔ；Ｆクラス対Ｂクラスの裏で・・・&ｇｔ；（前書き）

今回はＦクラス対Ｂクラスの試召戦争の間のＡクラスの話です。

第１３話&ｌｔ；Ｆクラス対Ｂクラスの裏で・・・&ｇｔ；

問題６
問．ベンゼンの化学式を答えなさい。

姫路瑞希・川崎葵・一ノ瀬和哉・神谷優璃・桐谷宗一郎・神楽坂蓮の答え
Ａ．Ｃ６Ｈ６

教師のコメント
正解です。君たちには簡単すぎましたね

土屋康太の答え
Ａ．ベン＋ゼン＝ベンゼン

教師のコメント
君は化学を舐めていませんか。

吉井明久の答え
Ａ．Ｂ－Ｅ－Ｎ－Ｚ－Ｅ－Ｎ

教師のコメント
後で土屋君と一緒に職員室に来るように。

B対Fの試召戦争中。

Aクラスにて。

優子「愛子、おはよう」
愛子「優子遅かったね」
優子「えぇ、少し寝坊しちゃって」
高橋先生「皆さん席について下さい、転校生が来たので紹介します」
宗一郎「まったく、やっと来るかと思ったら初日に遅刻とはな」
薫「蓮くんらしいけどね」
高橋先生「神楽坂君、入って来て自己紹介をお願いします」
蓮「神楽坂　蓮です。一年間よろしくお願いします！」
A女「か、かっこいい・・・！」
A女「彼女とかいるのかな・・・？」
高橋先生「では、私は試召戦争の立ち会いにいってきますので、各自自習していてください」
そう言って、高橋先生は教室から去っていった。
宗一郎「やっときたか、蓮」
蓮「もうすこし早く来る予定だったんだけどね～」
愛子「君が神楽坂君か～」
蓮「えっと、君は？」
愛子「工藤　愛子だよ、ヨロシクね☆」
蓮「うん、よろしくね」
優子「あ、あの、さっきはありがとうございました！／／／」
蓮「ん？木下さんか、どういたしまして」
優璃「あれ？優子さん、蓮くんと面識あるの？」
優子「えぇ、朝に変な人たちに絡まれているところを助けてもらったのよ」
蓮「そういうこと、ちょっと職員室に用事あるからいってくるね」

優璃「わかったー」
そう言って、蓮は教室から出て行った。
薫「蓮くんは困ってる人は放っておけない子だからね～♪」
愛子「なんかかっこいいよね、そういうの。優子も惚れちゃったんじゃないの？」
と、優子をからかうように愛子は言った。
優子「な、何言ってんのよ！？／／／そんな訳ないでしょ！？／／／」
愛子の言葉に優子は頬を赤く染めながらそう反論したが、
宗一郎「ほう、木下が蓮をねぇ・・」
愛子「冗談のつもりだったんだけどね～」
薫「蓮くんは鈍感だから、がんばらないとね～、優子ちゃん♪」
と、三人そろってニヤニヤしながら優子に向かってそう言った。
優子「ちょ？／／／ちが！？／／／」
翔子「・・・優子顔真っ赤」
優子「／／／」
バタンッ！
小山「木下　優子はいるっ！？」
急に扉を開け飛ばし、Cクラス代表が教室に入ってきた。
利光「なんだい？騒々しいね」
優子「アタシに何か用かしら？」
小山「木下　優子・・私達を豚呼ばわりして・・許せないわ！！」
優子「はい？」
小山「まだと惚ける気！いいわ、我々CクラスがAクラスに宣戦布告するわ！」
宗一郎「は？話がまったく見えないんだが・・・」
優璃「わたしも全然意味がわからない・・・しかも宣戦布告されちゃったし・・」
利光「君はCクラス代表の小山さんかい？木下さんは遅刻してきてさっききたところだよ」

小山「そんな嘘には騙されないわよ！」
蓮「戻ったよー・・・ってどうかしたの？」
そこに蓮がもどってきた。
薫「えっとね、Ｃクラスの代表さんが木下さんに今日の朝罵倒されたんだって、で腹いせに試召戦争を申し込まれたんだよ～」
小山「そうよ！私たちには豚小屋がお似合いですって！？訂正しなさいよ！」
優子「いや、訂正もなにもアタシいま登校してきたところなんだけど」
蓮「うん、木下さんと一緒にさっき来たところですよ？」
小山「じゃ、じゃあ誰なのよ！？たしかに、アンタだったわよ！？」
と小山は優子を指差しながら言った。
優璃「・・ねぇ、優子さん、たしか双子の弟がいるんでしたよね？」
と、優璃は思案顔のまま優子にそう尋ねた。
優子「え、えぇ、いるわよ。」
宗一郎「！なるほどな、Ｆクラス代表・・・なかなか姑息な手を使ってくれるじゃないか」
薫「どゆこと？」
蓮「ん～優璃たちはＣクラスの人たちを罵倒したのは、木下さんじゃなくてＦクラスに所属している弟だと考えてるわけだね？まあ木下さんにはそんな時間なかったから違うのはわかってるんだけどね」
優璃「うん、麗奈や和くんに聞いた話なら、見分けがつかないほどらしいから」
優子「・・・秀吉に話聞いて来るわ・・！（返答次第じゃ身体中の関節外してやる！！）」
優璃「今は試召戦争中だから、Ｆクラスには立ち寄れないですよ？」
蓮「そうだよ、一旦落ち着いて（ナデナデ）」
蓮は優子に声を掛け、頭を撫でて優子を宥めた。
優子「え？／／／あ、あの、その／／／（なんか物凄く落ち着くわ・・／／／）」

愛子「優子気持ち良さそうだね～（ニヤニヤ）」
優子「はっ！？／／／愛子何言ってるのよ！／／／」
宗一郎「話戻すぞ・・」
蓮「そうだね」
優璃「蓮くんが言わないでよ・・・」
蓮「？？」
宗一郎「続きだ、Ｆクラスが Ｃクラスを何故ウチに仕向けたかだが・・・Ｃクラスと Ｂクラスが同盟関係にあるからだな」
小山「何故それを知ってるのよ！？」
宗一郎「企業秘密だ。Ｆクラスが Ｃクラスを焚きつけた理由なんてそれくらいしかないだろ・・で、優璃、どうする？」
優璃「もう申し込まれたちゃったし、Ｃクラスの皆さんには悪いけど、負けるわけにはいかないからね」
宗一郎「まぁ、冷静に考えれば、勝てる訳ないのにな、無能代表のせいでＣクラスの連中はＤクラスの設備行きだな」
と、宗一郎は皮肉たっぷりにそう言った。
小山「誰が無能よ！」
無論、小山は怒鳴りながら、宗一郎に詰め寄っていった。
薫「優璃～なんとかしてよ～」
優璃「う、うん。小山さん、今降伏するなら、設備は見逃します。その代わり、色々条件を飲んでもらいますけど」
と、優璃が小山に対して、降伏勧告をするも・・・
小山「うるさいわよ！誰が降伏なんてするもんですか、開戦は午後からよ！首洗って待ってなさい！」
完全に頭に血が上ってる小山が聞く耳持つはずなかった。

第１３話&ｌｔ；Ｆクラス対Ｂクラスの裏で・・・&ｇｔ；（後書き）

次回は明日か明後日にＡクラス対Ｃクラスの話を投稿する予定です。

ご意見、ご感想等ありましたらよろしくお願いします。

あとできればでいいので、小説の評価もよろしくお願いします。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n1068z/

バカと天才？たちと召喚獣

2011年12月17日09時05分発行